

# 地域づくりにつながる 人材育成の方法 ～つなげるチカラ編～

## 2グループ

安芸高田市生涯学習課 若狭孝祐  
福山市北部生涯学習センター 高橋文子  
福山市中部生涯学習センター 河野良輔  
広島市三養公民館 高路貴子

助言者：奉田正史

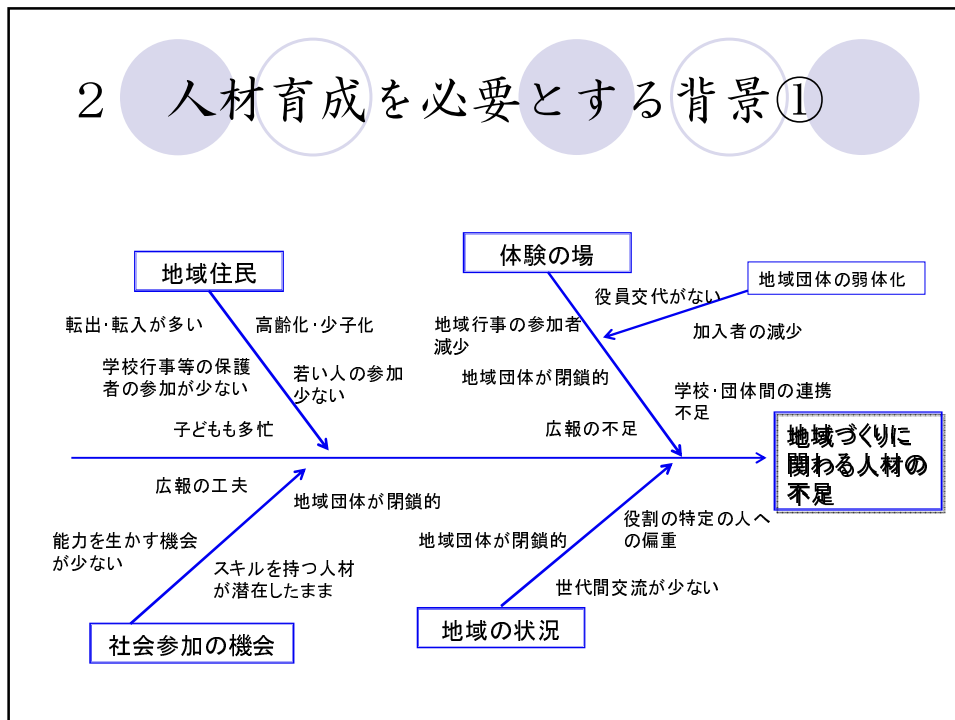
## 1 はじめに

社会の急激な変化やライフスタイルの変化により、人と人とのつながりや地域への帰属意識が弱まり、地域コミュニティの衰退が顕著になってきている。

また、地域における課題は複雑で、従来のように行政のみの対応では限界があり、住民の理解、協力、自主的な参加が不可欠となっている。

社会教育としての「ひとづくり（＝人材育成）」を行い、さらに「ひと」と「ひと」とをつなぐことで地域づくり活動を支援することが期待される。

## 2 人材育成を必要とする背景①



## 2 人材育成を必要とする背景②

### ● 現状

- ・ 地域活動の担い手が少なく、同じ人に負担が偏重している。
- ・ 地域に能力を持っている人はいるが、活用がない。
- ・ 若い世代（20～40歳代）の地域参加が少ない。
- ・ ターゲットとなる地域住民に情報が届いていない。

### 3 人材育成システム

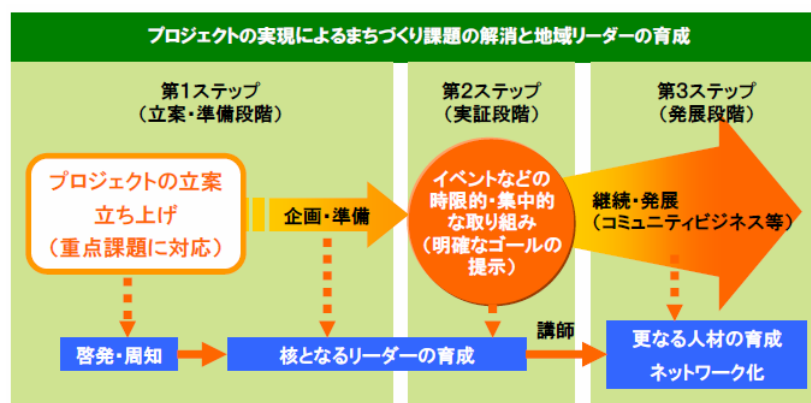
#### A：育成先行型

- 座学中心の知識詰め込み型カリキュラム
- 見識を広めることができる。
- 個人の知識にとどまることが多い。

#### B：プロジェクト型

- 実現可能なプロジェクトの実現を支える人材をそのプロジェクトの準備段階から巻き込み戦略的に育成する。
- 実践の場があることにより、経験を積むことができる。

### 3 人材育成システム (プロジェクト型人材育成システム)



## 4 事例 1

### ● 事例1-1

「福山市坪生学区中高年活力アップ楽校」

対象：中高年者

内容：中高年から自分の楽しみ・生きが  
いづくりについて学び、参加者同士の連  
携を深める。

## 4 事例 1

### ● 事例1-2

### ● ポイント

自らの楽しみや生きがいづくり講座とし  
て呼びかけ、新規の参加者が参加しやす  
い「呼び水」のような内容で実施する。

講座修了後に希望者を募り、地域づくり  
の具体的な活動を呼びかける。

## 4 事例 2

### ● 事例2-1

「福山市手城学区ボランティアの会」

対象：手城学区住民

内容：学区が学校や地域に必要なものを収集し、それらに携わるボランティアを募集して、活躍の場を提供している。

## 4 事例 2

### ● 事例2-2

### ● ポイント

自分の特技を生かして活動するため、無理なく活動できる。

地域課題を吸い上げて、対応するボランティアを募集している。

地域の方の特技や関心のあることを知ることができる。

## 4 事例3

### ● 事例3-1

「仙台市若者のボランティア活動支援事業」

対象：大学生など

内容：市民センターを活動の場として、大学生が自分たちのアイデアで成人式後の「交流のひろば」や「まちづくり実践塾」を企画・実施していく。

## 4 事例3

### ● 事例3-2

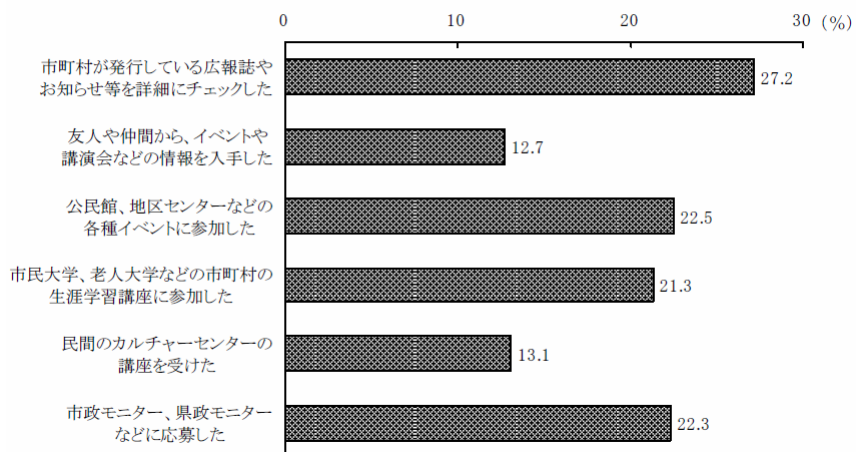
### ● ポイント

大学生と地域団体を初期の段階から意識的に関わらせることにより、地域との連携を深めながら育成してゆく。

地域に認知してもらうことにより、活動が広がり、若者の提案を実現するための支援を行うことができる。

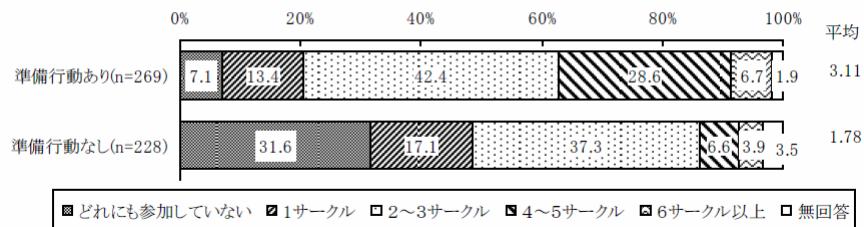
## 5 人材活用のための意識調査 団塊世代の退職後の社会的活動①

図表7 リタイア後1年以内に行った社会的準備行動<複数回答>



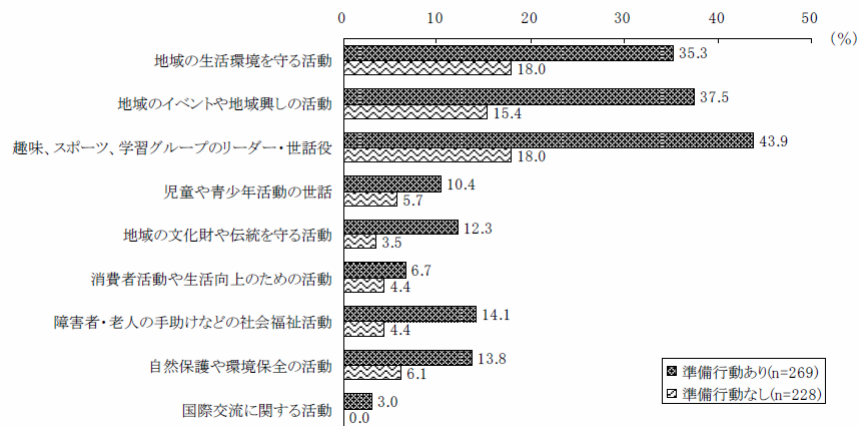
## 5 人材活用のための意識調査 団塊世代の退職後の社会的活動②

図表10 準備行動の有無別現在のクラブ・サークル等の参加・活動団体数



## 5 人材活用のための意識調査 団塊世代の退職後の社会的活動③

図表12 現在の地域活動・ボランティア活動参加率(準備行動の有無別)

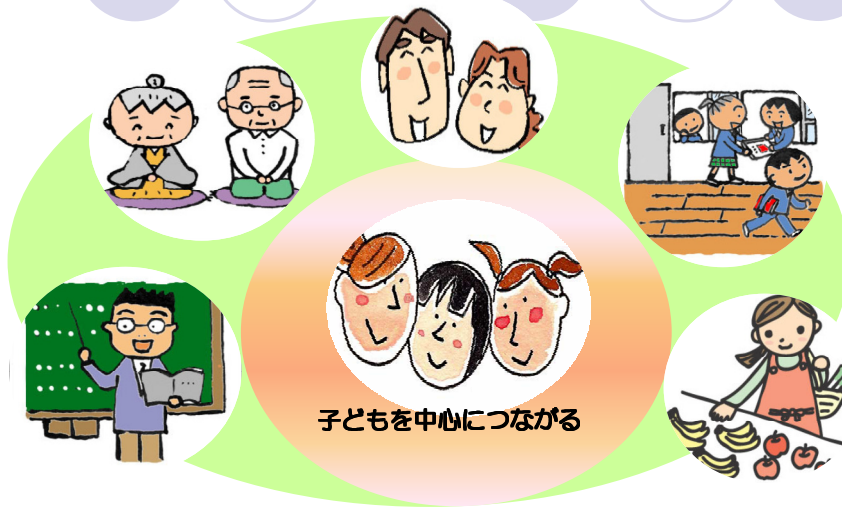


## 6 プログラムづくりへの活用

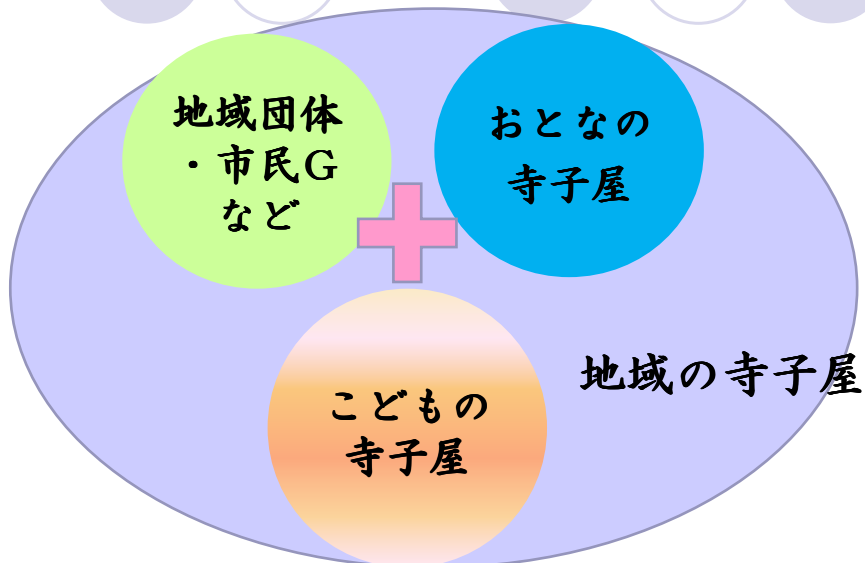
- 事業名 「地域の寺子屋」
- 対象地域 福山市北部のT地域
- 内容 地域で子どもの成長を支えることによる地域づくりの仮想プログラム作成。



7 地域の寺子屋



7 地域の寺子屋 (イメージ図)



## 7 事業計画書（地域の寺子屋）

事業名	地域の寺子屋 ～みんなが繋がる～
課題	同じ地域で暮らしているながら、世代間交流の場が少ない。 親世代の体験不足や子どもの関わり減少により子どもの自然体験や遊び体験が不足している。また、就労形態の変化により、週末にも就労する保護者が増え、家庭で子どもが一人で過ごす状況がある。このため、地域で子どもの成長を支え地域の教育力を向上させるための場を提供する。
ねらい	参加者が自分の特技・知識を生かし、「こどもの寺子屋」を企画・運営することにより、地域活動に加わってもらい、多くの人に関わってもらい、活動を広げる人材を育成する。
目標	①世代間交流を行い、参加者同士が顔のわかる交流を行う ②地域団体との交流を行い、地域の活動に関心を持ってもらう ③企画・提案がしやすい環境をつくり、参加者にやりがいを感じてもらう。
対象・定員	主に地域（概ね小学校区）に住む中高年者と地域の子ども
参加費	原則無料（材料代は実費徴収）

## 8 事業計画書（おとなの寺子屋）

事業名	おとなの寺子屋 ～自由な時間があったら何をして過ごしますか～
課題	地域活動に無関心な住民が多く、地域団体やボランティアなどのメンバーが固定化されている。 なにか始めたいとの思いがあっても、きっかけがなく地域デビューせず、家にこもっている中高年者が増加している。 特技や知識を持っているが、発揮する場を提供できていない。
ねらい	参加者が自分の興味・関心があることについて学習するとともに、仲間づくりを支援する。地域について知ってもらい地域活動に参加する機会を提供する。
目標	①学習を通じて参加者同士が共に学ぶネットワークを形成する ②地域団体との交流を行い、地域の活動に関心を持ってもらう ③講座修了者に個々の関心のある分野で地域活動に関わろうという意識を養う
対象・定員	主に地域（概ね小学校区）に住む中高年者（仕事を引退された方）
参加費	原則無料（材料代は実費徴収）
実施日・回数	連続5回講座 月一回 平日昼間実施（真夏や真冬、行事繁忙期を避ける）

## 8-2 チラシサンプル

バラの苗  
引換券

～自由な時間があつたら何してすごしますか？～

楽しい生き方と愉快な仲間づくり、実現！  
**おとなの寺子屋**

「学ぶ」「遊ぶ」喜びをふたたび！  
家でひとり過ごす時間をもっと面白くアップの時間にあてませんか。  
ちょっとした発見や仲間づくりがあなたの生活に彩を添えると、もっと元気に  
なれると思いませんか。シニアの皆さんのご参加をお待ちしています。  
連続の参加はもちろん、1回の参加でも歓迎です。

回	日時	内容	講師
1	6月12日(火) 13:30-15:30	楽しい手紙で夏前に演出	〇〇学区老人クラブ
2	6月26日(火) 13:30-15:30	10歳は若返る！姿勢矯正	〇〇学区体育協会
3	7月10日(火) 13:30-15:30	体の中からきれい！デトックス料理	すこやか養生指導 リーダー
4	7月24日(火) 9:30-11:30	発見がいっぱい！歴史探訪	〇〇郷土史会
5	8月14日(火) 13:30-15:30	地域デビューは誰のため？健康寿 書を編ぶ方法	会報編集プランナー

※毎回講座の後半に、さきやかなティータイムを行います。どうぞご参加ください。

- 会費 〇〇円
- 対象 地域の中高生者
- 参加費 3回分の材料費として1000円
- 申込み 〇〇公民館まで ☎〇〇〇-〇〇〇〇〇

左上の「バラの苗引換券」を公民館窓口にお持ちください。素敵なバラの苗を差し上げます。

## 8-3 活動希望調書 (講座終了後に配布)

おとなの寺子屋 卒業アンケート

おとなの寺子屋、卒業おめでとうございます。  
皆さんの更なる元気な生活を応援するために、アンケートにご協力ください。

Q 「おとなの寺子屋」を卒業して、次はどんな講座に参加してみたいですか？  
また得意なことはなんですか？  
次の表の当てはまる項目に○をつけてください。(複数回答可)

	参加したい	得意である
1 工作・科学実験		
2 スポーツ (グラウンドゴルフ、卓球など)		
3 歴史 (郷土史、日本史など)		
4 音遊び (けんだま、竹笛、ペーゴマなど)		
5 健康促進 (ウォーキング、心の健康など)		
6 料理 (お菓子作り、男のクッキングなど)		
7 農業体験 (米作り、野菜作り、ガーデニングなど)		
8 囲碁・将棋		
9 学問・語学 (国語・数学・理科・社会・英語など)		
10 その他 興味のあることや特技がありましたらお書きください。 (パソコン、イラストなど)		

名前 ( )

最初から支援を明確にすると、参加者によっては参加意欲が湧きにくい人がいる。



講座修了後に希望者を募り、地域づくりの具体的な活動呼びかける。

## 9 事業計画書（こどもの寺子屋）

事業名	こどもの寺子屋 ～地域の達人と過ごす HAPPY DAY～
課題	親世代の体験不足や子どもの関わりの減少により子どもの自然体験や遊び体験が不足している。また、就労形態の変化により、週末にも就労する保護者が増え、家庭で子どもが一人で過ごす状況がある。このため、地域で子どもの体験の場を提供し、子どもを取り巻く地域の教育力を向上させる。
ねらい	参加した子ども達が地域の人から工作やレクリエーション等を学び交流することにより、体験する楽しさを実感し、豊かな心を育てる。 子どもの体験活動をサポートする人同士が企画・運営を通じ、主体的に活動する基盤となるネットワークを形成する。
目標	①休日に一人で過ごす子どもの体験の場として広報に力を入れ、地域の人に周知してもらう。 ②地域団体の協力を得ることにより、「こどもの寺子屋」以外の地域行事の情報も発信し、こどもが地域で様々な体験ができる機会を増やす。
対象・定員	主に地域（概ね小学校区）に住む小中学生
参加費	原則無料（材料代は実費徴収）
実施日・回数	毎月1・3の土曜日 9：00～15：00

## 10 連携・協力する地域団体

- 老人クラブ
- 体育協会
- 主任児童民生委員
- すこやか食生活推進リーダー
- 退職校長会

1 1 研修を通して学んだこと  
(社会教育職員として大切なこと)

- ①地域の情報を集め、活動の情報を発信し続ける情報発信力
- ②住民一人ひとりのことを知り、思いに通じた情報を提供し、活動につなげるコーディネート力
- ③活躍の場を設定し、学びの循環システムをつくる企画・立案力

お礼

- ご清聴ありがとうございました

